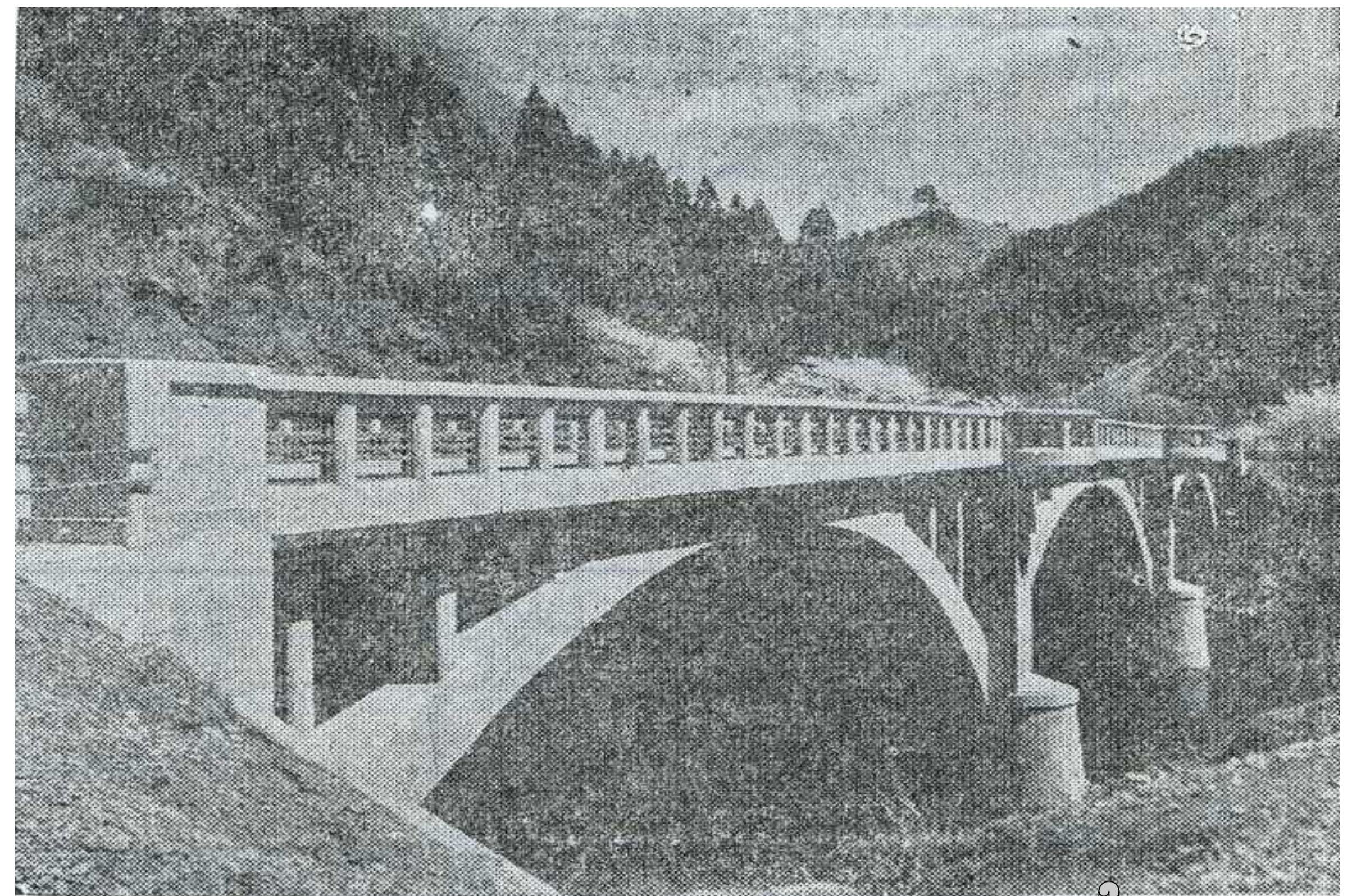




那須烏山市の近代化遺産

境橋【平成19年度土木学会選奨土木遺産】

- ・境橋は、主要地方道常陸太田那須烏山線的那珂川の渓谷に架けられた橋長112.5mの上路式RCオープンスパンドレル(開腹=間隙のある側壁)アーチ橋で、アーチ橋はシルエットそのものが意匠性に優れているといわれている。
- ・現在の橋は、昭和12年に竣工した3代目の橋で、初代の橋は明治30年に舟を横に並べて板を置いただけの舟橋、2代目は大正9年に洋式木橋(洋式を模倣したトラスの木橋)が架けられていた。
- ・現橋の設計者は、関東大震災後の帝都復興局橋梁課長として隅田川橋梁群の設計など、百数十橋を手がけた橋梁設計の第一人者・成瀬勝武で、『戦前土木名著100書』に数えられる成瀬勝武の著書「弾性橋梁」では、境橋の設計計算書が31ページにわたって紹介されている。



成瀬勝武著「弾性橋梁」所収の境橋



- ・橋脚上には半円バルコニーが左右対称に設けられている。近代のバルコニー付きRC橋は、全国で8橋しかない貴重なものである。
- ・また、那珂川屈指の景勝地に融合した優美な景観から平成19年度土木学会選奨土木遺産に認定された。
- ・境橋は、当代における橋梁設計の第一人者によるモダンな発想と最新の技術によって建造された時代を代表する橋であり、今も近代の華やぎを水面に映している。

平成19年度からすやまフォトコンテスト入賞作品
「晩秋の境橋」萩原隆二氏撮影



土木学会選奨土木遺産プレート



設置された近代化遺産解説板



土木学会選奨土木遺産認定書

